

街路条件調査要領

1. 道路幅員

標準幅員	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	.	<input type="text"/>	m
最小幅員	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	.	<input type="text"/>	m

(1) 調査方法 現地調査

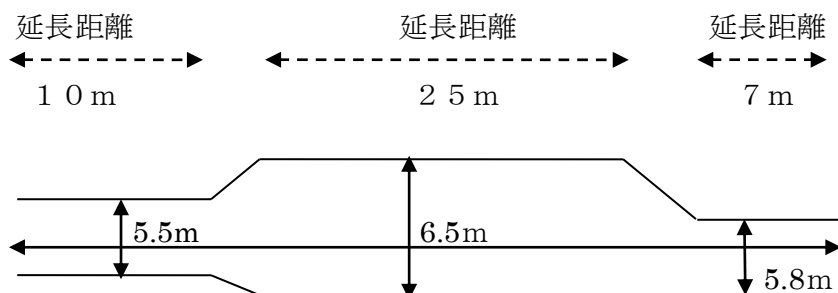
(2) 計測単位 10 cm

(3) 計測方法 計測ツールにより実測する。計測ツールは指定しないが、実施前に相模原市に照会し、承認を得ること。

(4) 用語の定義

① 標準幅員

路線のなかで幅員の差異により延長距離を捉えた場合に、その延長距離が最大の部分の幅員をいう。下図の例では、6.5 mとなる。



② 最小幅員

路線のなかで最小の幅員をいう。上図の例では、5.5 mとなる。ただし、行き止まり路線の最奥部のみ部分的に狭い等、路線としての連続性が特段見受けられない部分については、当該部分を除いた最小幅員を計測する。

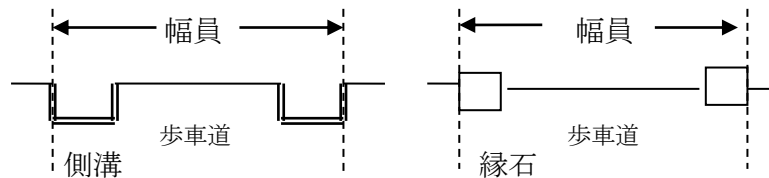
(5) 側溝、縁石、法敷、歩道、中央分離帯の取扱い

幅員に	含める	側溝、縁石、歩道、中央分離帯
	含めない	法面、公開空地(歩道状空地も含めない)

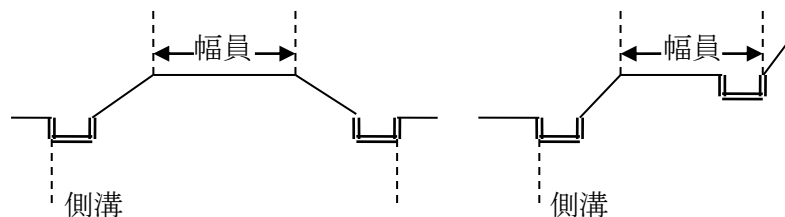
※ 「法面」とは道路断面端の傾斜地で、(歩行者であっても通常は)通行できない部分をいう。

※ 側溝が蓋無しで幅1 m以上の場合は、備考欄に「蓋無し側溝幅1 m以上」と注記すること。

① 通常のケース



② 法面のあるケース



(6) 留意事項

- ① 鉄軌道や他の道路をオーバー又はアンダーパスする道路の脇に設けられた道路(側道)については、当該路線が付設された側の側道部分のみを計測する。
- ② 駅前広場に付設された路線については実測せず、99.9 mとする。
- ③ 下記のような事由により精度の高い実測が不可能な場合は、可能な方法で概測し、備考欄に「幅員実測不能」と記し、かつ、実測できない事由及び概測方法を注記すること。
 - ・ 道路工事中の場合
 - ・ 路線が私有地(門扉や塀の向こう側)に付設されている場合
 - ・ 国道等で車両通行が絶えない場合

2. 舗装

舗装




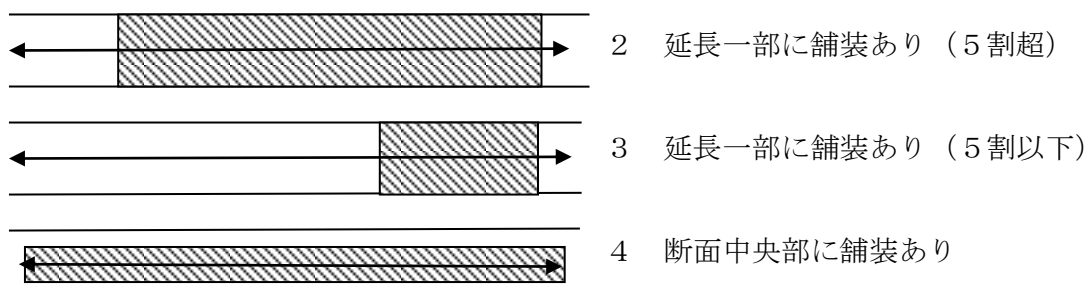
- 1 全部に舗装あり
- 2 延長一部に舗装あり（5割超）
- 3 延長一部に舗装あり（5割以下）
- 4 断面中央部に舗装あり
- 5 全部舗装なし

（1）調査方法 現地調査

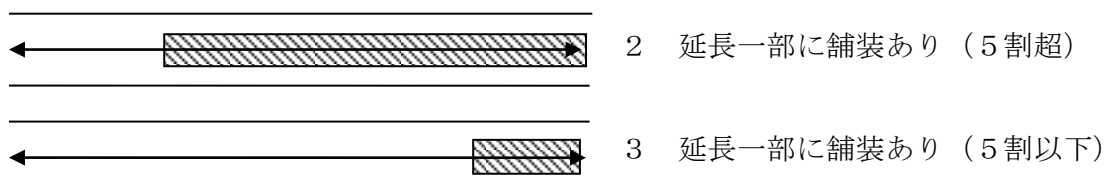
（2）判定方法 目視による。

（3）舗装・未舗装部の混在（例）

 舗装部分



※ 路線延長と路線断面の舗装・未舗装混在が複合する場合には、
路線延長を優先して判定する。



(4) 留意事項

- ① アスファルト、コンクリート等の種別を問わず舗装ありとする。ただし、砂利・碎石敷は舗装とみなさない。
- ② 剥がれ、ひび割れ、凹凸等、劣化が著しい舗装についても「あり」とするが、備考欄に「舗装に著しい劣化あり」と注記すること。
- ③ 道路工事中の場合は見込みで判定し、備考欄に「工事中につき舗装は推定」と注記すること。


3. 道路種別

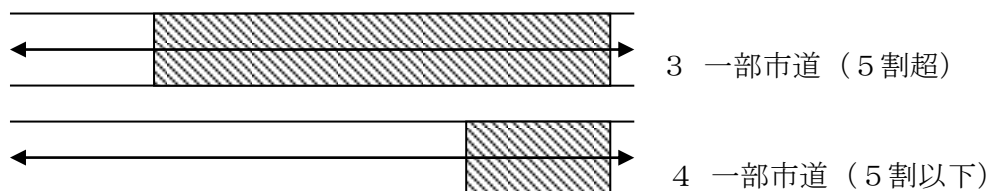
道路種別	<input type="text"/>
1	国・県道
2	全部市道
3	一部市道（5割超）
4	一部市道（5割以下）
6	私道
7	緑道
8	二項外道路

(1) 調査方法 資料調査

(2) 判定方法 相模原市認定路線網図、建築基準法道路図等による。

(3) 市道・非市道の混在（例）

 市道認定部分



(4) 留意事項

市道と他の種別が混在する場合は、市道が占める割合によって「一部市道（5割超）」または「一部市道（5割以下）」と判定し、混在状況を備考欄に注記すること。
市道以外の種別が混在する（国道と県道の混在は除く）場合には、路線のうちで過半を占める種別で判定し、混在状況を備考欄に注記すること。
認定路線網図の種別に関わらず、建築基準法道路図の種別が法定外道路である場合は「二項外道路」と判定し、認定路線網図の種別を備考欄に注記すること。

4. 連続性

連続性



- 1 1 通り抜け可（複数方向）
- 1 2 通り抜け可（一方向）
- 2 1 通り抜け不良（全部階段）
- 2 2 通り抜け不良（階段あり）
- 2 3 通り抜け不良（恒常的車止あり）
- 2 4 通り抜け不良（暫定的車止あり）
- 2 5 通り抜け不良（車両進入禁止表示あり）
- 2 6 通り抜け不良（最小幅員 2 m未満）
- 2 7 通り抜け不良（その他）
- 3 1 行き止まり（転回なし）
- 3 2 行き止まり（転回あり）

（1）調査方法 現地調査

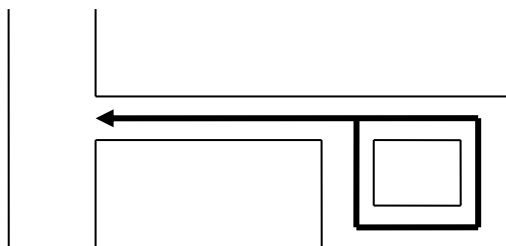
（2）判定方法 目視による。

（3）用語の定義

通り抜け可	車両(小型乗用車)の通り抜けが可能
通り抜け不良	車両(小型乗用車)は通り抜け困難だが、歩行者は通り抜け可能
行き止まり	通行者の種別を問わず、通り抜けできない。

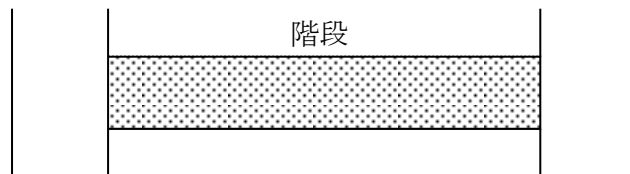
（4）通り抜け可の判定（例）

1 2 通り抜け可（一方向）

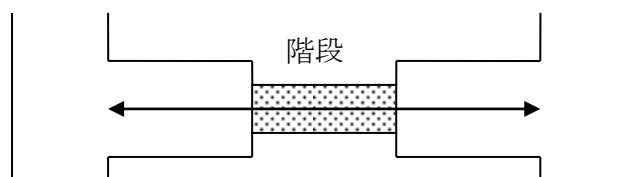


5) 通り抜け不良の判定 (例)

2 1 通り抜け不良 (全部階段)

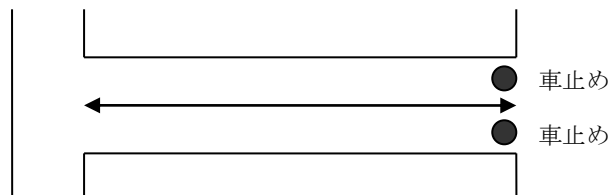


2 2 通り抜け不良 (階段あり)

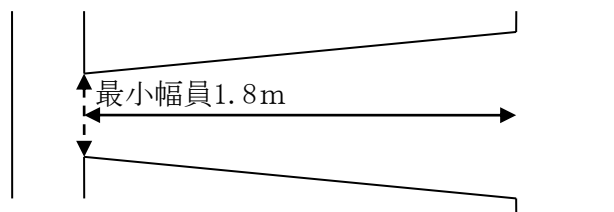


2 3 通り抜け不良 (恒常的車止あり) 埋め込み

2 4 通り抜け不良 (暫定的車止あり) パイロン等

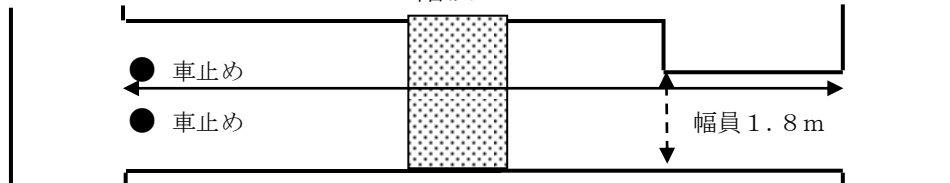


2 6 通り抜け不良 (最小幅員 2 m 未満)



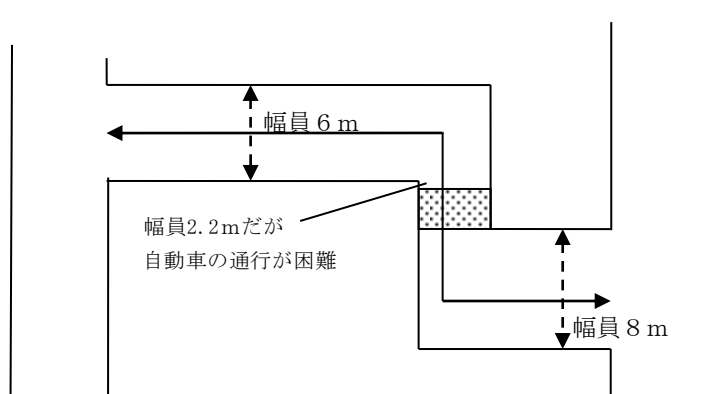
※ コード 2 1 ～ 2 7 の要素が複合する場合には、最も前番号を優先して判定し、備考欄に後番号を注記すること。

2 2 通り抜け不良（一部階段）



備考欄「連続性複合 2 3、2 6」

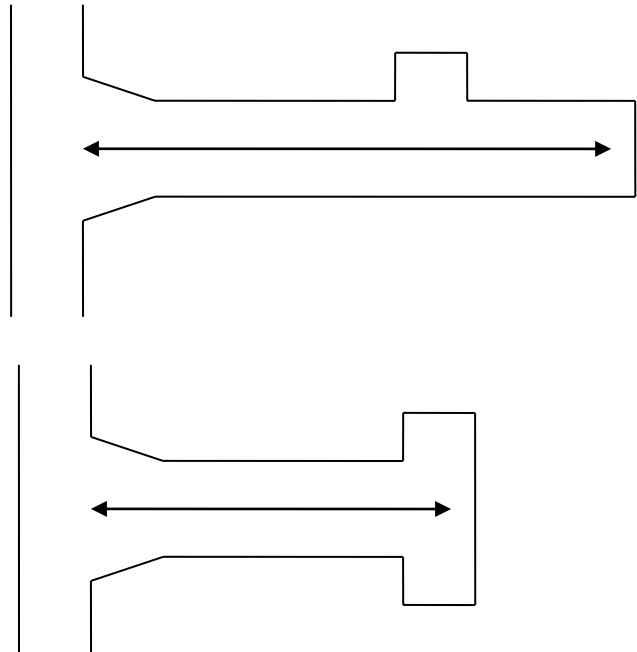
※ コード 2 7 は主体的に判定を行い、その理由を備考欄に注記すること。例えば下図のように両端の幅員は広くとも角度の強いクランクを介し、クランク部の幅員が狭く、小型乗用車の通り抜けが困難と思われる場合には「2 7 通り抜け不良（その他）」と判定する。



備考欄（例）「クランク部幅員 2.2 m で車両通り抜け困難」

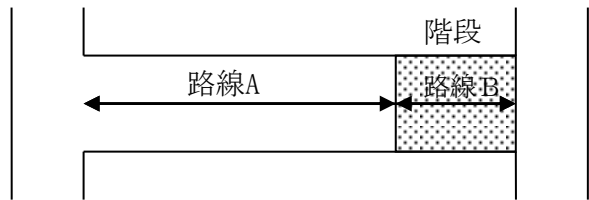
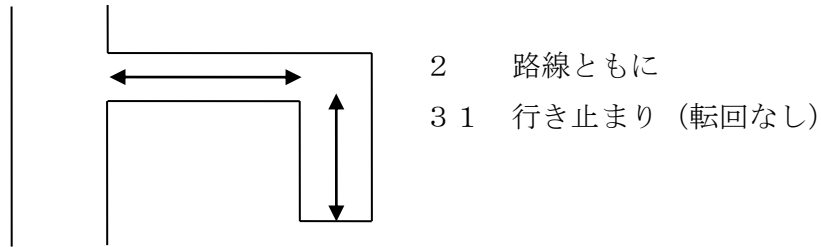
(6) 行き止まりの判定 (例)

3 2 行き止まり (転回あり)



(7) 判定範囲

連続性の判定は街路（交差点から交差点まで）単位で行う。すなわち、一街路に複数の路線が付設されている場合には、街路内の他路線も考慮すること。

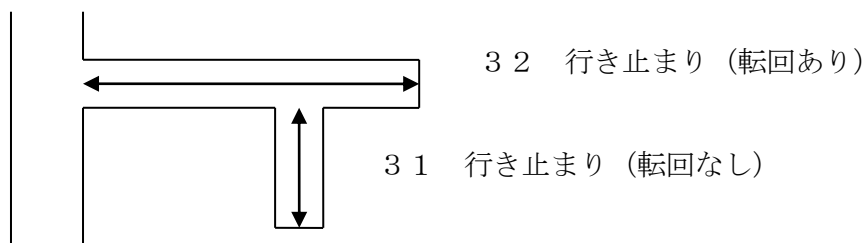


路線A 2 2 通り抜け不良 (階段あり)

路線B 2 1 通り抜け不良 (全部階段)

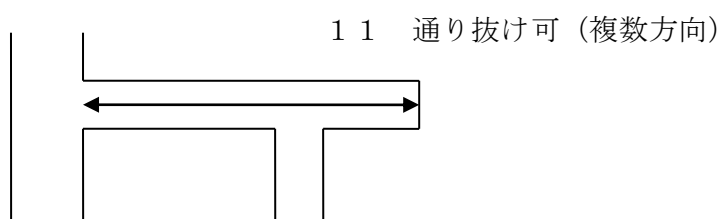
(8) 転回有無の判定

行き止まりに係る転回の有無については、転回広場が設けられた行き止まり道路はもちろん、枝的に行き止まり道路が派生して、当該部分で実際上の転回ができる場合も「あり」と判定する。



(9) 連続性の混在

一路線のうちに複数の連続性判別が混在する場合には、路線のなかで連続性の差異により延長距離を捉えた場合に、その延長距離が最大の部分の連続性コードを採用し、混在する状況について備考欄に注記すること。



備考欄 (例) 「連続性 3 1 部分が混在」

5. 道路勾配

標準勾配	<input type="text"/>	度
最大勾配	<input type="text"/>	度

※ 対象は、津久井、相模湖、藤野地区のみ
旧市域、城山地区は指定する路線のみ計測

(1) 調査方法 現地調査

(2) 計測単位 度

(3) 計測方法 計測ツールにより実測する。計測ツールは指定しないが、実施前に相模原市に照会し、承認を得ること。

(4) 用語の定義

① 標準勾配

路線のなかで勾配の差異により延長距離を捉えた場合に、その延長距離が最大の部分の勾配をいう。

② 最大勾配

路線のなかで最大の勾配をいう。ただし、行き止まり路線の最奥部のみ部分的に傾斜が強い場合については、当該部分を除いた最大勾配を計測する。

6. 問い合わせ

街路条件調査についての疑問等については、別紙「街路条件調査問い合わせ票」に記載して、相模原市に提出し、指示を受けること。

街路条件調査問い合わせ票		
○ ○ 記 入	問い合わせ日	令和 年 月 日
	路線番号	
	調査項目	道路幅員 舗装 道路種別 連続性 道路勾配 その他 <small>該当する項目に○を付けてください</small>
	問い合わせ 内容	
	別添図面	あり なし <small>該当する項目に○を付けてください</small>
	調査担当者	
相 模 原 市 記 入	回答日	令和 年 月 日
	回答内容	
	回答者	